



4月より運行を開始しているラッピングシャトルバス（関連記事 P 9）

新入職員オリエンテーションに密着

4月1日、歯学部4階講堂において、平成27年度新入職員辞令交付式が行われ、196名が岩手医科大学の一員となりました。

本号の岩手医科大学報では、4月1日～3日に行われた新入職員オリエンテーションに密着し取材した模様と、新入職員からの言葉をお伝えいたします。

※オリエンテーションの内容は一部を抜粋しています。

1日目



【辞令交付式】

歯学部4階講堂において、新入職員辞令交付式が行われ、195名が式に臨みました。新入職員の呼名の後、新入職員を代表して岩手県高度救命救急センター助教の佐藤諒さん（左写真）が辞令を受けました。その後は小川理事長の式辞に続いて、中6階看護師の三田地由美子さんが誓詞を述べました。



【外部講師による講演】

ヒューマンアカデミー仙台校の若山博美氏を講師としてお招きし、社会人としての考え方や挨拶のポイント、報連相などの仕事の進め方について研修が行われました。

また、メンタルタフネスについても触れ、「失敗は成長のチャンスであり、課題・改善点の振り返りが重要である」と講演がありました。

2日目

【学長講話】

小川彰学長より、大学の沿革や、今後のビジョンについて説明が行われました。

講話では、「新入職員は約3,000名の職員の中の一人かもしれないが、その一人の行動が組織全体の評価となる。日々医療に関わるものとして研鑽を積んでほしい。また、慣れないことも多々あるかもしれないが、最初のうちは挨拶をきちんとすることを心掛けてほしい」とお話がありました。





【事務局長講話】

高橋事務局長より、大学の財務状況と事務局組織について、説明がありました。

講話では、「わからないことは何でも聞き、常に『なぜ』という気持ちを持つこと」「失敗は『勉強料』である。失敗の原因を分析、次の問題の解決法を見つけることが重要であり、失敗を恐れるよりも工夫のないことを恐れる」とメッセージがありました。



【病院長講話】

酒井病院長より、附属病院の役割について説明がありました。

講話では、「本学附属病院は医科、歯科、循環器医療センター合わせて1,166の許可病床を有する特定機能病院で、専門性もどんどん多様化してきている。矢中新病院は内丸メディカルセンターとともに更なる医療の充実に向けて始動する予定であり、病院のため、思い切り力を発揮していただきたい」とお話がありました。

※3日目は盛岡中央消防署から講師をお招きし、消火訓練を実施



◆採用者内訳は次のとおりです

助教21名、専門研修医8名、臨床研修医13名、臨床研修歯科医29名、事務員6名、嘱託事務員1名、薬剤師7名、臨床検査技師7名、診療放射線技師4名、理学療法士1名、作業療法士1名、視能訓練士1名、臨床工学技士1名、調理師5名、看護師88名、保健師1名、嘱託GMRC 1名、ポストドクター1名

新入職員からの言葉 「新入職員オリエンテーションを終えて」



阿部 靖子
看護部 ICU・CCU

学長の講話を聞き、自分に出来ることから始めていくことが大切だと感じました。患者さんの不安や悩みを包み込めるように、思いやりの心と誠意を持って、精一杯取り組んでいきたいと思います。また、「誠の医療」を提供できるよう、自己研鑽に努めていきたいです。



庄司 健人
薬剤部 調剤・製剤部門

研修の中で多くの職種の方と学ぶことで、チーム医療の一員であることを再認識させられました。より良い医療を患者さんに提供できるように、チーム医療の中で他の職種の方と意見を出し合い、多くの視点から医療を捉えていきたいです。



木村 翠
総務部 人事職員課

研修の中で「一人の言動が全体の信頼を壊す」というお話が印象的でした。学生の時とは違い、自分の成すこと全てに責任が問われてくるので、自分の言動によってどのような結果になるのかを推測しながら業務に取り組んでいきたいです。



齋藤 皇也
中央放射線部

より安全な医療を提供するためには、コミュニケーションをしっかりとることも大切だと感じました。お互いに意思疎通が出来ていなければ、小さなミスが生まれ重大な事故につながる可能性もあるため、日頃の挨拶から心がけていきたいです。

学校法人岩手医科大学

平成27年度 事業計画

1. 背景と方針

本学は明治30（1897）年、創立者三田俊次郎が岩手県の医療の貧困を憂い、私財を投じて設立した私立岩手病院に併設された医学講習所に源を置く。創立者はまた、医療の充実には医師の充足のみでは不十分であると看破し、国の法整備に先んじて産婆看護婦養成所も併置し、産婆・看護婦の養成に着手している。これは正に、現代のチーム医療の概念にも通ずる画期的な業績と言えよう。その後、医学講習所は私立岩手医学校に発展したが、医育政策の変更により明治45（1912）年に医学校は廃校のやむなきに至り、産婆看護婦養成所も岩手産婆看護婦学校に改称、別法人として分立した。しかし、創立者の医学教育に対する情熱は衰えることなく、昭和3（1928）年に財団法人岩手医学専門学校を設立、昭和22（1947）年に大学に昇格し、現在に至っている。

私立岩手病院医学講習所の設置から118年の歳月を数える中、本学は進取の学風と「誠の人間の育成」の建学の精神に基づき有為な人材を輩出し、医学の進歩と地域医療の安定、保健福祉の向上に貢献してきた。2年後の平成29（2017）年には120周年の節目を迎えることから、かねてより進めてきた矢巾キャンパスへの附属病院の移転整備、メディカルセンター設置を含む内丸地区の再整備に加え、学校法人岩手女子奨学会からの岩手看護短期大学の経営移管の受入れと、これを母体とした4年制看護学部（構想中）も含め、創立120周年記念事業として実施することを決定した。看護学部は、平成29年度の開設を目指して準備を進める。

創立120周年記念事業は、創立者の掲げた厚生済民の原点に今一度回帰した上で、新時代を担う誠の総合医療の実現と地方にあって世界に発信する大学への飛翔を目指す壮大なプロジェクトである。この推進には教職員、学生はもとより卒業生や父兄、関係者や地域の方々の理解と協力が得られなければならない。したがって、これまで培ってきた信頼の歴史を改めて掘り起こすとともに、現在保有する知の力、医の力を積極的にアピールし、将来に向かって本学への支援拡大に努めるものとする。

一方、我が国は、人口構造の変化や経済情勢の変動、国際社会における緊張の高まり等から不透明感が漂い、私立大学を巡る経営環境は更に厳しさを増している。このような中、本学が使命とする教育・研究・医療を通じた社会貢献を永続的に遂行するためには、財政基盤の安定強化が大きな課題である。特に、消費税増税に物価上昇、復興事業やオリンピック関連事業に伴う建築資材の高騰等の要因も重なり、当面の最優先事業である附属病院の移転整備が、当初計画を大幅に上回る多額の資金を要すると見込まれることから、帰属収入の約64%を占める医療収入の積極的な増収策を推進するとともに、一層の医療経費節減に努めることとする。更に、今後の社会情勢の変化を慎重に見極めながら、関係機関等とも協議を重ね、各種補助金の活用や借入等の長期的な資金計画を策定するものとする。

以上の方針に基づき、平成27年度は次の重点事業を実施する。

2. 主要な事業計画

1 創立120周年記念事業関係

- ①矢巾新病院建設に向けた附属病院移転事業の推進
- ②エネルギーセンター棟建設工事の推進
- ③附属病院移転用地（C敷地）土地造成工事の推進
- ④内丸地区附属病院跡地利用計画における基本構想協議

- ⑤矢巾キャンパス緑化事業の推進
- ⑥創立120周年記念事業に係る広報展開
- ⑦岩手看護短期大学の受入れに伴う体制整備及び看護学部の設置認可申請

2 教育・研究関係

- ①医師国家試験・歯科医師国家試験・薬剤師国家試験の合格率向上対策
- ②矢巾キャンパス歯学部臨床基礎実習室のファントム実習機を増設
- ③医・歯・薬三学部の研究連携を推進
- ④各種教育研究プロジェクトの推進
- ⑤就職率向上と就職先拡大のための継続的な支援
- ⑥全学部における教員養成推進事業
- ⑦教学 I R (Institutional Research) 充実化事業
- ⑧医療専門学校の入学生の確保
- ⑨医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

3 補助事業及び委託事業関係

- ①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進
- ②私立学校施設整備費補助金による機器整備
- ③オーダーメイド医療実現化プロジェクト（第Ⅲ期）
- ④次世代がん研究戦略推進プロジェクト
- ⑤革新的医療機器等開発事業
- ⑥がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
- ⑦災害時地域医療支援教育センター事業
- ⑧災害時実践力強化事業
- ⑨岩手県こころのケアセンター運営事業
- ⑩いわてこどもケアセンター運営事業
- ⑪岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑫東北メディカル・メガバンク事業

4 医療関係

- ①積極的増収策の実施
- ②効率的な医療提供体制の整備
- ③附属病院移転に向けた運営基盤の整備
- ④緩和ケアセンターの整備
- ⑤病室リモデルの実施
- ⑥質量分析装置の整備
- ⑦臨床検査にかかる品質保証認定の取得
- ⑧循環器医療センターのMR I 更新
- ⑨循環器医療センター 5 階 I C U 増床拡充工事
- ⑩眼科外来診察室改修工事
- ⑪高精度放射線治療による外来緩和放射線療法
- ⑫医事システムの更新

5 管理運営関係

- ①業務支援ネットワークの更新
- ②業務支援ネットワークメールサーバの更新
- ③ウイルス対策ソフトウェアライセンス及び配信サーバの更新
- ④ネットワークにおけるシステム運用管理及びコンサルテーションの業務委託
- ⑤人事給与システムの更新

6 施設設備関係

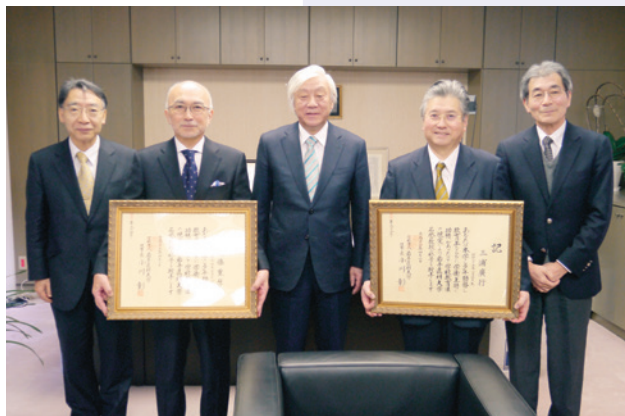
- ①歯学部外壁修繕
- ②歯学部トイレ改修工事（洋式化及び床の張替え）

※掲載内容は、平成 27 年度事業計画書を抜粋したものです。詳細は、平成 27 年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」をご参照ください。

平成26年度名誉教授称号授与式が行われました

4月1日（水）、創立60周年記念館10階理事長室にて、名誉教授称号授与式が行われました。

式では、小川理事長より名誉教授の称号を授与し、これまでの大学貢献に対して感謝の言葉を述べました。



平成26年度名誉教授称号授与者（平成27年4月1日付）
三浦 廣行（前口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 教授）
遠藤 重厚（前救急医学講座 教授）

平成27年度入学式が行われました

4月9日（木）、岩手県民会館にて、岩手医科大学の入学式が行われ、大学院医学研究科博士課程40名・修士課程1名、歯学研究科博士課程3名、薬学研究科博士課程5名、医学部123名・3年次編入学8名、歯学部69名・2年次編入学9名、薬学部159名の入学生を迎えました。

また、4月4日（土）、歯学部4階講堂にて、岩手医科大学医療専門学校の入学式が行われ、歯科技工学科19名、歯科衛生学科33名の入学生を迎えました。



岩手医科大学



岩手医科大学医療専門学校

3学部合同セミナーが行われました

4月11日（土）から2日間にわたり、八幡平市安比高原のホテル安比グランドにおいて平成27年度3学部合同学生セミナーが行われました。

このセミナーは、医・歯・薬学部生が連携し学部の垣根を越えて学ぶ大切さを体験しようとして平成24年度から行われているもので、今年で4回目の開催となりました。

3学部の6学年各20名が各学部混成のグループに分かれて症例テーマの病態・治療法・薬の処方などを討議し、今年度からは、本学附属病院看護師が助言者として参加し、クリニカルパス作成までを実施しました。教員も交えて医学・歯学・薬学の知を結集した討議や発表が行われ、医師・歯科医師・薬剤師によるチーム医療の重要性について確認しました。

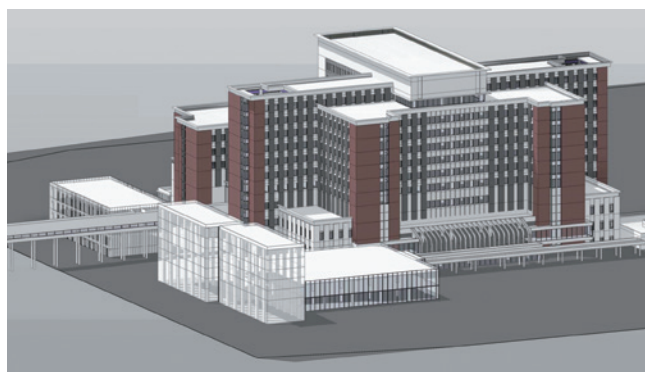


附属病院移転に係る特別講演会が行われました



4月21日（火）、矢巾キャンパス大堀記念講堂にて、小川理事長による附属病院移転に係る特別講演会を開催し、地域住民の方や教職員合わせて約500名が参加しました。

講演は「岩手医科大学矢巾新病院の構想について～矢巾地域はどう変わるか～」と題され、平成31年（2019年）に開院予定の新附属病院の計画や附属病院が建設されることに伴う矢巾町の周辺環境に与える影響予想について、完成予想図やコンセプトを踏まえながら、矢巾町民の皆様と連携した町づくりへの想いを語られ、講演終了後には聴講者から大きな拍手が寄せられました。



講演会で説明のあった整備イメージ
（左：外観 下：駅前通りにぎわい広場）



表彰の 栄誉

薬剤部稲垣学人薬剤師が日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015で 初心者優秀演題賞を受賞しました



この度、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2015（平成27年3月14日～15日；京都市）におきまして、稲垣学人薬剤師が演題「外来化学療法施行患者の febrile neutropenia (FN) に対する levofloxacin の有効性」について初心者優秀演題賞を受賞しました。研究成果は、外来化学療法で問題となる発熱性好中球減少症に対して、予防的に処方した抗菌剤を発熱時使用した結果、極めて有用であったという結果です。これは発熱性好中球減少症における抗菌剤の有用性を調査したのみでなく、その使用が医師、看護師とのカンファレンスに基づくチーム医療での合議に基づきプロトコールが作成され、薬剤師の十分な服薬指導のもと使用されたことが高く評価されました。

本学会は、臨床腫瘍に関わる薬剤師が中心となり、がん医療の薬物療法に関する質の向上を目指した学会です。我々の取り組みは、遠隔通院の多い地域医療で安全な化学療法を提供するためのエビデンスを発信できたものと思われます。

（文責：薬剤部 佐藤淳也）

120th
NEWS

ノベルティグッズを製作しました ラッピングシャトルバスの運行が開始されました

創立120周年記念事業の一環として、岩手医科大学のブランディング及び支援拡大を目的とするノベルティグッズを製作しました。

興味のある方は創立120周年記念事業事務局までお問合せください。()内頒布価格(税込)

ネクタイピン (1,500 円)



ピンバッジ (2個セット) (1,500 円)



本革マウスパッド (茶) (3,000 円)



金モール エンブレム (3,600 円)



本革マウスパッド (黒) (3,000 円)



誠のあゆみ、
未来へつなぐ

お問合せ先

創立 120 周年記念事業事務局

- 電話：019-651-5111 (内線 7022)
- メール：anniv@j.iwate-med.ac.jp

内丸キャンパスと矢巾キャンパスを結ぶラッピングシャトルバスが、4月6日（月）から運行が開始されました。

車両側面には、1号館（建設当初）・矢巾キャンパスの写真を施し、岩手医科大学の過去と未来、そして、創立120周年記念事業スローガンである「誠のあゆみ、未来へつなぐ」を表現しています。

前面



左側面



右側面

後面



理事会報告

1. 平成26年度補正予算について
2. 平成27年度事業計画について
3. 平成27年度予算について
4. 評議員の選任について
第4号評議員（新任）三浦 幸枝
（任期 平成27年4月1日から平成28年3月31日）
5. 役職者の選任について
医学部副学部長（再任）人見 次郎
医学部副学部長（新任）佐藤 洋一
（平成27年4月1日から平成28年3月31日）
学生副部長（再任）小豆嶋正典
（平成27年4月1日から平成30年3月31日）
附属病院副院長（再任）千田 勝一
附属病院副院長（再任）杉山 徹
附属病院副院長（再任）江原 茂
（平成27年4月1日から平成28年3月31日）
附属病院副院長（再任）岡林 均
（平成27年4月1日から平成29年3月31日）
附属病院副院長（新任）野田 守
（平成27年4月1日から平成30年3月31日）
高度救命救急センター長（新任）井上 義博
（平成27年4月1日から救急医学講座新任教授就任まで）
附属薬用植物園長（再任）藤井 勲
附属薬用植物園副園長（再任）林 宏明
（平成27年4月1日から平成29年3月31日）

6. 教員の人事について
臨床遺伝学科 教授 福島 明宗（前 同学科 特任教授）
泌尿器科学講座 講座内教授 阿部 貴弥（前 同講座 講師）
内科学講座消化器内科肝臓分野
准教授 遠藤 龍人（前同分野 特任准教授）
整形外科科学講座 准教授 村上 秀樹（前 同講座 講師）
小児科学講座 准教授 遠藤 幹也（前 同講座 講師）
内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野
特任准教授 鈴木 順（前 同分野 講師）
整形外科科学講座 特任准教授 古町 克郎（前 同講座 講師）
小児科学講座 特任准教授 亀井 淳（前 同講座 講師）
補綴・インプラント学講座
特任准教授 小林 琢也（前 同講座 講師）
補綴・インプラント学講座
特任准教授 金村 清孝（前 同講座 講師）
（発令年月日 平成27年4月1日）
産婦人科学講座
講座内教授 板持 広明（現 鳥取大学 医学部 講師）
（発令年月日 平成27年7月1日）
7. 組織規程の一部改正について
8. 学納金減免規程の一部改正について
9. 公益通報者の保護等に関する規程の一部改正について
10. 名誉教授の称号に関する規程の一部改正について
12. 職員就業規則の一部改正について
13. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について

シリーズ 職場めぐり

No.88

内科学講座消化器内科肝臓分野

肝臓分野では、4月から大学院生と専門研修医各1名が加わり、滝川康裕教授をはじめとする教員14名、大学院生6名を含む計25名のスタッフで新年度を迎えました。

当分野は岩手県におけるウイルス性肝炎や肝がんを含めた「肝疾患診療連携拠点」ならびに北東北唯一の「脳死肝移植施設」の内科診療科としての役割を担っています。教育面では肝疾患診療を通して内科全般を診療できる医師の養成を目指すとともに、研究面では常に臨床的意義を重視しながら、肝炎劇症化の予知・予防法の開発、人工肝補助装置の開発、肝再生機序の解明など、肝不全の克服に向けた臨床医学、基礎医学の両面から多角的に研究を行っています。

本年度より「Online HDFを基盤とした急性肝不全用の一体型個人用人工肝補助装置」の多施設

医師主導治験が本学を中心に行われる運びとなり、院内スタッフにご指導、ご協力を頂きながら目下精鋭準備を進めております。

(准教授 遠藤 龍人)



歯科保存学講座う蝕治療学分野

う蝕治療学分野は、臨床・研究・教育（&ワイン）大好きの野田教授をリーダーとする明るい講座です。

当分野の臨床は、①う蝕治療・審美治療、②有病者治療の2つの役割を担っております。有病者の治療については、循環器の先生と連携をとり、また頭頸部外科のカンファレンスにも参加、週に1回は歯科内科の教授、衛生士も参加するカンファレンスも行っています。有病者の治療は、全身管理に配慮し、ストレスがかからぬよう歯科麻酔科の先生による鎮静下のもと歯科治療を行うこともあり、体調が思わしくない患者に対してはベッド診にも伺っています。

教育に関しては、臨床研修歯科医師の指導も担っており、関西出身の野田教授自ら治療&ノリ&ツツコミの指導をしています。研究についても歯科材料に関する基礎研究や有病者に関する臨床研究な

ど多岐にわたり医局員一同取り組み、国内外の学会にて活動しています。

治療や研究等についてご質問やご興味ある方はどうぞお気軽にお声掛け下さい！

(講師 浅野 明子)



《岩手医科大学報編集委員》

小川	彰	菊池	初子
影山	雄太	江刺家	和恵
松政	正俊	佐々木	さき子
齋野	朝幸	米澤	裕司
小山	薫	佐々木	忠司
藤本	康之	畠山	正充
佐藤	仁	大須賀	志穂
成田	欣弥	武藤	千恵子
山尾	寿子	野里	三津子

編集後記

新緑の匂い立つ、素敵な季節になりました。
個人的に外歩きが大好きな私にとって、心踊る
今日この頃です。

今月号の特集は新人オリエンテーションに密
着した記事内容ですが、新入職者の方々は緊張
高まる中で、心が揺れ動いていると察しています。
以前読んだ本の中で「人は自分が教育を受けた
ように人を教育する」という言葉を目にしました。
教える側も、教えられる側もお互いに納得し尊
重し合うことが大切だと感じています。ひとつの
チームとして、お互い目標に向かい努力する環境
をつくっていききたいですね。

(編集委員 山尾 寿子)

岩手医科大学報 第464号

発行年月日 平成27年 5月31日
発行者 学長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111 (内線7023)
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座

内科学講座血液腫瘍内科学分野 助教 藤島 行輝



造血幹細胞移植の診療

血液腫瘍内科は、急性白血病を始めとする悪性腫瘍、造血不全、免疫疾患、HIV感染症などの診療を行っております。

急性白血病の患者さんの多くは、他院の血液一般検査で異常値がでたことをきっかけに外来受診され、その当日に、病状説明、入院、抗がん化学療法開始となります。内容を理解し受容する時間も充分でない場合もあります。その日から続く数ヶ月以上の入院、合併症に伴う苦痛、無菌室での孤独な生活など患者さん自身にとって治療に対する意欲を維持することが難しい状況が多い疾患です。

様々な理由で、抗がん化学療法だけでは治癒が難しい場合、同種骨髄移植（兄弟または骨髄バンクドナーからの骨髄を輸注）をはじめとする造血幹細胞移植を行います。大量抗がん化学療法を受けた直後に、提供者から採取した骨髄を輸注し、患者さんの体内（骨髄）で提供者の造血を回復させます。

移植後に提供者の造血が回復すると、免疫能の回復に伴い免疫反応（移植片対宿主病：GVHD）が出現します。このGVHDは未だ病態の理解と制御が完全ではありません。それゆえ移植後の強い免疫反応（重症GVHD）の結果、様々な全身性の合併症が新たに生じ、それが引き金となり急速に致死状況となる場合もしばしばあります。多彩な全身性合併症を長期にサポートする為に、担当医師、ナースはもちろんのこと、精神科医師、予防歯科医師、理学療法士、栄養士、薬剤師が協力して移植前より移植チームを形成

し、患者さんの総合的な診療を行っております（写真は毎週火曜日に行われている移植ミーティング）。

最近、他院からの骨髄移植目的の紹介も増加してきております。しかし先に述べた理由で、患者さん本人／家族にとって、またスタッフにとって決して簡単に成功を確信できる治療ではありません。個々の患者さんの移植適応は、ガイドライン等をもとに、詳細な病歴や患者情報を照らした上でカンファレンスの中でスタッフ間の合意形成に基づき決定しています。

造血幹細胞移植は血液腫瘍内科での治療となりますが、上に記した以外にも実に多くのスタッフ、各診療科、各部署の御協力のもとで成立しており、岩手医科大学全体の高い診療能力／病院機能に支えられております。深く感謝を申し上げるとともに、今後も血液腫瘍内科としてその機能の一端を担って行ければと考えております。



移植ミーティングの様子